

地域再生計画（道整備交付金）中間評価調査

| | | | | | |
|-------|---------------|--------|-----------------------|---------|---------------------------------|
| 都道府県名 | 茨城県 | 事業実施主体 | 土浦市、石岡市、かすみがうら市、小美玉市 | 地域再生計画名 | “山・湖・空” 豊かな自然環境・観光資源をつなぐ 地域再生計画 |
| 計画期間 | 平成25年度～平成29年度 | 評価責任者 | 茨城県農林水産部林業課長、石岡市市長公室長 | | |

| ①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況 | 指標 | | 基準値 | | 中間目標値 | | 最終目標値 | | 中間評価 | 中間目標値の実現状況に関する評価 | |
|------------------------------|-------------------------------|--|-------------------|------------|---|--|---------|---------|------|------------------|---|
| | | | 基準年度 | H23 | 年度 | 中間実績 | 基準年度 | H29 | | | |
| ①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況 | 指標 1 | 間伐体験などのグリーンツーリズム参加者の増 | 3,383人 | H23 | 3,383人 | H27 | 6,560人 | 4,066人 | H29 | ○ | 一部市道の整備が完了したことや前計画で整備した朝日トンネルが開通し地域の周遊性が増したことから目標値を達成した。市道整備、林道整備を通じ更なる参加者の増を目指す。 |
| | 指標 2 | かすみがうら水族館入館者数の増 | 29,922人 | H23 | 29,922人 | H27 | 40,462人 | 35,000人 | H29 | ○ | 一部市道の整備が完了したことや近隣でのイベント開催による波及効果により、震災直後の落ち込みから回復し、目標値を達成した。市道整備、林道整備を通じ更なる参加者の増を目指す。 |
| | 指標 3 | 「空の駅」年間利用者数の増 | 23万人 | H23 | 23万人 | H27 | 53万人 | 33万人 | H29 | ○ | 一部市道の整備が完了したことやイベント開催により、目標値を達成した。市道整備、林道整備を通じ更なる参加者の増を目指す。 |
| ②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況 | 指標 1 | | | | | | | | | | |
| | 指標 2 | | | | | | | | | | |
| ③事業の進捗状況 | 事業名 | | 整備量（その他の事業では取組内容） | | | 事業の進捗状況に関する評価 | | | | | |
| | | | 計画 | 中間年度 (H27) | 最終実績 見込み | | | | | | |
| 特別措置を適用して行う事業 | 市道 | | 16,347 | 589m | 16,347m | 平成27年度末で589mの整備が完了したが、用地買収等に時間を要し、当初計画から遅れが出ている状況である。引き続き事業実施し、計画に則した整備を目指す。 | | | | | |
| | 林道 | | 1,140 | - | 1,140m | 平成27年度末で339.4mの区画を整備したが、オオタカの生息調査等に時間を要し、当初の計画から遅れが出ている状況である。引き続き事業実施し、計画に則した整備を目指す。 | | | | | |
| | 小町の里(本館改修及び体験館新築)整備事業 | 自然とのふれあいの、歴史文化の探検、観光等を柱とした、都市住民との交流拠点及び地域農業の活性化の場の整備 | | | 平成25年に小町の里のリニューアル事業を完了し、新たに観光情報発信の拠点、そば打ち体験のほか、稲作体験や田んぼアート事業など、様々な体験事業の拠点として事業展開している。しかしながら、継続的な賑わいの創出など今後も様々な観点から改善が必要だと思われる。 | | | | | | |
| | 都市と農村の交流事業 | 都市住民との交流を促進させ、地域特産物の販路拡大や多様な形態による農業・農村ビジネスの育成につなげる取り組みを行っている。 | | | 平成21年度から都市と農村の交流事業推進事業協議会を新治地区と霞ヶ浦周辺地区に設置し、「ふるさと農業体験塾」と「土浦れんこん道場」を開催した。平成27年度からは、JA土浦の若手農業者組織が「ヨリアイ農場」として引き継ぎ、農業の新たなビジネスモデルとして実施している。 | | | | | | |
| | 農産物地域特産化推進事業 | 本市の特色ある農産物及び加工品の付加価値を高めるため、「つちうらブランド」としての認証登録を進め、消費者に地域の農産物等のアピールを行い、新たな販路及び販売量の拡大を図る。 | | | 平成21年度から農産物についてブランド化の検討を行なって来た。平成28年度からは農産物に加え、畜産物や水産物、さらに加工品を含めた新たなブランド化を展開し、消費者等に広くPRしていくことにより地域の農業の活性化を図っていく。 | | | | | | |
| | かすみがうらマラソン兼国際盲人マラソンかすみがうら大会事業 | かすみがうらマラソンを核としたスポーツ観光事業を推進する。 | | | 2万人を超えるマラソン参加者への参加賞に地元名産品を取り入れるほか、3万人を超える参加者及び応援者に対して会場で名産品を販売するなどマラソンを通じて土浦・かすみがうら両市の観光PRと交流人口の増に努めている。 | | | | | | |
| | (仮称)田村沖宿線(市道1級42号線)延伸道路整備事業 | 土浦協同病院の土浦市おおつ野地区への移転により、病院へのアクセス向上、特に神立地区など市の北部からのアクセス向上の必要があることから早急な整備を実施する。 | | | 平成27年度末に480mの整備が完了し、供用を開始しているが、用地買収等に時間を要していることから、当初計画より遅れが生じている状況である。引き続き事業を進め、早期の整備完了を目指す。 | | | | | | |
| | 国道354号土浦バイパス拡幅(4車線化)整備事業 | 国道354号土浦バイパスを県内全域の救援支援活動に不可欠な道路と位置付け、4車線化の拡幅整備工事を実施する。 | | | 平成27年度までに延長約5.3kmのうち約2.9km区間については4車線化が完了しており、残る2.4km区間についても早期の4車線化を図るべく、整備を進めていく。 | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---|--|
| その他の事業 | グリーンツーリズム事業の推進 | 廃校となった旧朝日小学校を、グリーンツーリズムの拠点として事業を実施している。森林における間伐・枝打ち体験や丸太切り・薪割り体験など林業の振興事業を実施している。 | 広域に小学生を中心に農業体験を受け入れ、体験観光の拠点として事業を展開している。林業関係の体験メニューについては、希望が少ないこともあり実施回数が伸びない状況である。今後広報PRを積極的に実施し間伐体験等の体験観光の機会を増やしていく。 |
| | 茨城県フラワーパークリニューアル事業 | 茨城県フラワーパークのリニューアルを順次実施し、観光振興及び震災復興への足がかりとなる施設環境の整備を進めている。 | 庭園の再整備やイルミネーションなどを実施し、観光振興及び震災復興への足がかりを着実に進めてきた。今後も関係機関と協議を行いながら計画的に施設環境の整備を進める。 |
| | 筑波山地域ジオパーク推進事業 | 地形や地質といったジオ資源や歴史・文化的遺産を利用し、地域の観光や教育を活性化することにより、地域振興を図ることを目的とした事業を進めている。 | 平成28年9月に日本ジオパークとして筑波山地域が認定された。これを契機としてイベントやジオツアー開催を積極的に展開し、さらなる交流人口の増加を図り、地域再生につなげていく。 |
| | 観光サイクリング事業 | サイクリングイベントを開催することにより、地域の魅力のPRや地元の人々が霞ヶ浦の良さを再発見できるような催しにするとともに、市民と市外観光客等との交流拡大を図っている。 | サイクリングイベントの参加者に対し、地域で使用可能な「サイクルポイント」を付与することにより、地元製品の消費拡大を図っている。また併せて霞ヶ浦の特産品を使ったグルメフェスを同時開催することにより、レースに参加しない地元の方も気軽に参加している。今後も様々な取り組みにより交流拡大を図っていく。 |
| | 地域ブランド「湖山の宝」推進事業 | 生鮮品や加工品等を象徴する統一したブランドネーミング（湖山の宝）を設け、魅力ある多様な観光資源や食のブランド化を進めている。 | 平成27年度から地域ブランド「湖山の宝」をふるさと応援寄附返礼品として選定し、全国に地域の特産品をPRしており、事業者のモチベーションの向上につながっている。このほか首都圏での地域製品のPRも行うなど販路拡大と品目の増加を図っていく。 |
| | (仮称)小美玉市「空の駅」整備事業 | 茨城空港を核とした交流拠点並びに地域再生拠点としての施設を整備することにより、これを起爆剤にして新市のまちづくりを進め、市民はもとより市外からの集客を図り、既存の観光資源と結びつけることで、地域経済の活性化や産業振興さらには、茨城空港の利用促進などに寄与することを目的とした事業を実施する。 | 平成26年7月に「空のえき そらら」の愛称でオープンした。今後も地域の魅力が再発見できる場所として小美玉のオリジナルにこだわり、地産地消・交流人口の拡大・地域再生の拠点として展開していくことを目指す。 |
| | 茨城空港テクノパーク整備事業 | 茨城空港テクノパークは首都圏の北の玄関口である茨城空港に隣接し、県内唯一の臨空型工業団地の特徴を活かし、空港関連産業や流通産業等の企業誘致を茨城県と連携して行うことで空港周辺の賑わいや雇用の創出を目指す。 | 茨城県や関係機関と連携し企業誘致活動を展開している。今後も、環境整備を行うとともに、積極的な企業誘致活動を行い産業拠点としての集積を図る。 |
| | (仮称)石岡小美玉スマートICアクセス道路整備事業 | 常磐道石岡小美玉スマートICと国道6号を連結する道路を整備することにより、小美玉市周辺から常磐道へのアクセス性の向上を図るとともに、小美玉市周辺地域及び国道6号の交通円滑化を促進するものである。 | 平成27年度から国の交付金を受け事業化し、現在、県と小美玉市が役割分担しながら事業を進めているところであり、東京オリンピック・パラリンピックや茨城国体も見据え、整備を進めていく。 |
| 計画外で独自に実施した事業 | | | |
| ④評価方法 | 事務事業評価等により毎年度目標値の進捗管理を実施し、公表している。 | | |
| ⑤中間評価の公表方法 | 構成市のホームページに掲載 | | |
| ⑥計画全体の総合評価 | 本地域再生計画では、道整備交付金を活用した市道整備と林道整備を一体的に実施し、山・湖・空の観光ネットワーク化を強化することで地域の復興・再生を目的としている。市道整備、林道整備の状況は全体的に遅れている状況である。引き続き計画に則した整備を目指す。指標に関しては、いずれも目標値を達成している状況である。本地域再生計画により山・湖・空の観光ネットワークが強化される見込みであるため、さらなる高い数値を目指し引き続き事業展開を図り地域再生につなげる。 | | |
| ⑦今後の方針等 | 計画上の道路整備が円滑に進むことで、山・湖・空の観光ネットワークが強化され目標を達成する見込みである。このため、引き続き本地域再生計画に沿って事業を推進していきたい。 | | |